

地域人材の参画に伴う 大学との連携

コミュニティこくふ

この事業を始めたきっかけ

コミュニティビジョンの実行委員会での意見が発端

コミュニティを利用し活動しているグループの特徴

利用団体は高齢者が多い > 子どもや若い世代が少ない

子どもや若い世代が意欲的に活動できる場の提供ができないか
もしくはそのきっかけづくりが出来ないか

連携大学

○ 兵庫県立大学 安枝研究室

地域づくり、コミュニティづくりを研究、実践

○ 甲南女子大学 山下ゼミ

神戸における手芸作家の発掘、発信

地域×大学×企業のひょうご絆プロジェクト

○ 目的

- ・ 作品展の企画・実施
- ・ 作品制作をする住民（作家）の作品を介しての交流
- ・ 子どもや若い世代の参画の推進
- ・ 他地域の作品制作をする住民（作家）との交流

○ 補助金 年間25万円×3年間

「つくるよろこび実行委員会」の立ち上げ

- 1 ものづくり展示会・販売会の開催
 - ・ 観賞者の興味・関心を引き出す
 - ・ 作品制作をする住民（作家）のモチベーションを上げる
- 2 ワークショップの開催
 - ・ 子どもや若い世代にもものづくりの楽しさを体験する場を提供
 - ・ 参加者の興味・関心を引き出す
 - ・ 作品制作をする住民（作家）のモチベーションを上げる
- 3 他事業でグループ人材を活用
 - ・ 参加者の興味・関心を引き出す
 - ・ 作品制作をする住民（作家）を講師として活用

主な活動

- 毎月2回 作品に係る話し合い・作成作業等
- 国府会場での「つくるよろこび展」
販売会ワークショップをとおした「下町レトロに首っ丈の会」との交流
- 神戸会場での作品展・販売会・「下町レトロに首っ丈の会」との交流
- 但馬ドームギャラリー展示
- 但馬ドーム25周年記念行事での作品展示
販売会・ワークショップ
- 国府地区作品展 展示



成果と課題

成 果

- 各種展示会等で実施したワークショップは評判が良く、子ども連れの若い層の参加者が多くみられた
- 1年目よりも2年目と確実に参加者数を増やしている
- SDGsを意識した作品制作にも取組み、好評を得ている
- 比較的計画どおり実践できた

課 題

- 3年目以降の交流等に係る資金の捻出方法

一番の課題

今後も出来ることから着実に目標達成に向けた取組を
推進していきたいと考えています

ご静聴ありがとうございました